

## 第7章

# 環境保全啓発活動



## 第7章 環境保全・啓発活動

### —持続可能な社会を目指して—

高度な経済成長と共に私たちのライフスタイルが変わり、便利さや物質の豊かさなど優先した結果から大量生産・大量消費・大量廃棄といった状況が生じています。これは地球温暖化や生物多様性といった地球的規模の問題に繋がります。

自分たちの生活を見直すことが、地球的規模の問題解決に役立ちます。自家用車の使用・冷暖房の温度設定・待機電力などに気をつける・・・日常生活のなかで出来ることを無理せず力まず行う・・・継続して行うことが大切です。持続可能な社会に向けて“持続は力なり”

本市では持続可能な社会の実現に向け、市民への環境保全活動・活動の啓発等を実施しました。

こどもエコクラブの支援や環境教室・かたの環境講座の開催などの啓発・学習事業を展開するとともに、環境フェスタなど市民との協働の取り組みを推進しました。また、19年度より運用している環境マネジメントシステム（環境自治体スタンダード：LAS-E）により市役所の事務事業からの環境負荷を低減するよう取り組みました。

### 1. 環境教育

環境にやさしい暮らしを啓発するため、以下の事業を実施しました。

#### (1) こどもエコクラブの支援

環境省が実施している「こどもエコクラブ事業」に基づき、市内のこどもエコクラブに対して、クラブ間の交流や活動の支援、情報の提供等を行いました。また、「エコロジカルとれーにんぐ」や各クラブが実施する「エコロジカルあくしょん」の報告を受け、その活動内容を確認しアースシールを発行しました。

登録クラブ 7クラブ（平成23年3月時点）

クラブ名	クラブ員数	サポーター数
スマイルエコクラブ	9人	7人
天の川クラブ	10人	1人
ひまわりエコクラブ	31人	6人
妙見坂小学校エコクラブ	15人	2人
たんぽぽエコクラブ	7人	3人

#### 交野市こどもエコクラブ交流会

- ①「夏休み“おがわ”の生き物観察会」：全国水生生物調査を兼ねて、身近な自然とふれあうことで、環境問題への関心を高めるとともに広く水環境保全の普及啓発を図ることを目的としました。

実施日 平成22年7月29日（金）

場 所 私市水辺プラザ

参加者 9名（サポーター含む）

- ②「地球にやさしいラーメンづくりセミナー」：ラーメンを作るといって食生活の行動のひとつひとつが地球環境問題のどの問題と関連しているか実験を通じて学ぶことを目的としました。

実施日 平成23年3月25日（金）

場 所 ゆうゆうセンター調理室1

参加者 18名（サポーター含む）

## (2) 夏休み環境教室

「宝物さがし・カモフラージュとぶんぶんゼミ木っくん」

自然とふれあいを通じて感性を豊かにし、環境保全の意識を高めることを目的としました。

実施日 平成22年8月19日(木)

場 所 星の里いわふね

## (3) かたの環境講座

温暖化を始めとする環境問題への対策には、市民一人一人の足元からの行動が必要ですが、その重要性を認識してもらうことが最も難しい課題でもあります。その課題にひとりでも多くの市民に気づき、行動して頂けるよう環境問題を広く啓発し、また、環境保全活動のリーダーとなる人材を育成することを目的として、かたの環境講座を5回開催しました。大阪市立大学理学部附属植物園の協力のもと、フィールド学習もふんだんに盛り込んだ講座を実施しました。

第1回 平成22年6月12日(土) 10:00 から  
「スパイダーウォッチング」  
講師：追手門学院大学 教授 西川 喜朗氏  
受講者数 17名

第2回 平成22年7月27日(火) 18:00 から  
「セミの大変身」  
講師：龍谷大学 講師 谷垣 岳人氏  
受講者数 50名

第3回 平成22年9月11日(日) 10:00 から  
「森の中でCO<sub>2</sub>を追いかけよう」  
講師：大阪市立大学 講師 植松 千代美氏  
受講者数 28名

第4回 平成22年11月20日(土) 10:00 から  
「秋の魔術師 紅葉の不思議」  
講師：大阪市立大学 准教授 名波 哲氏  
受講者数 24名

第5回 平成22年12月4日(土) 10:00 から  
「冬の森の生き物」  
講師：NPO 法人 やまと自然と虫の会 伊藤ふくお氏  
受講者数 33名



## 2. 市民との協働の推進

### (1) かたの環境ネットワーク

自然環境・暮らしの環境について活躍をする個人や団体が集まり、官・民相互の交流と支援・連携を深め、交野の環境保全活動をより活性化することを目的に平成17年5月に13団体と1個人によって発足しました。毎月1回の定例会を中心に、団体間の情報交流や文化祭で環境保全をPRされています。

(2)環境フェスタin交野2011の開催

テーマ「見つめよう 環境・暮らし」として私たちの暮らしの中から様々な環境を考え、地球環境問題、身近なゴミ問題、里地・里山保全など自然環境問題等について、環境フェスタの開催により広く市民に啓蒙・啓発し、また団体間の交流をはかり、地域からの行動を喚起することを目的とし、市民・団体・事業者・行政が一体となり実行委員会形式により開催しました。

日 時 平成23年2月20日（日）

場 所 星の里いわふね

参加者 約3,400名

3. 環境にやさしいまち交野推進事業

交野市が「環境にやさしいまち」・「環境自治体」となるために、環境基本計画などの策定を視野に入れ、あるべき方向性やなすべきことなどを、市民・事業者を交え、協働作業の中で議論し共通の認識を形作ること及び策定後の実施主体の創設、育成を視野に入れ実施しました。

平成 22 年 10月 4日	第 1 回委員会	・委員委嘱 ・オリエンテーション ・ワークショップ 『お互いに知り合う』
10月 21日	第 2 回委員会	・第 4 次総合計画について ・グループワーク 『交野市の好きなおところ、改めたいところ』
11月 15日	第 3 回委員会	・地球温暖化について 講師：NPO 法人環境市民 代表理事 杵本育生氏 ・グループワーク 『地球温暖化について、取り組み等』
11月 29日	第 4 回委員会	・ごみ問題について 講師：NPO 法人環境市民 事務局長 堀孝弘氏 ・グループワーク 『ごみ問題について、私が感じること』
12月 8日	第 5 回委員会	・里山・自然について 講師：夙川学院短期大学 教授 片山雅男氏 ・グループワーク 『交野の里山・里地・自然とどのように触れ合ってきたか、今と昔で変わってきたこと、感じること、問題点』
12月 21日	第 6 回委員会	・フィールドワーク ごみ処理施設等見学（スーパーマーケットのバックヤード、寺作業所、北河内 4 市リサイクルプラザ）
平成 23 年 1月 14日	第 7 回委員会	・交通について 講師：京都大学大学院 教授 中川大氏 ・グループワーク 『交野市の交通の問題点について（公共交通・自動車・自転車・歩行者）』
1月 20日	第 8 回委員会	・環境教育について 講師：同志社大学 准教授 西村仁志氏 ・グループワーク 『環境教育を広める上での問題点、学びたい立場での問題点』
2月 8日	第 9 回委員会	・エネルギー問題について 講師：NPO 法人気候ネットワーク 事務局長 田浦健朗氏 ・グループワーク 『エネルギーに関して感じている問題について』
2月 25日	第 10 回委員会	・環境を活かしたまちづくり 講師：NPO 法人環境市民 代表理事 杵本育生氏 ・グループワーク 『もっと活かしたい交野の環境の資源』
3月 6日	第 11 回委員会	・フィールドワーク 里山保全活動の現場（森、倉治、いきものふれあいセンター）、天野川の源流を探る（私市、奈良県生駒市）
3月 17日	第 12 回委員会	・今年度のふりかえり

#### 4. 環境マネジメントシステムの構築・運用

すべての職員が、環境の視点を持ちながら業務に当たることを目指し、環境自治体会議のシンクタンクである環境政策研究所が、環境自治体と呼ぶにふさわしい自治体の目安として制定した LAS-E(Local Authority's Standard in Environment：環境自治体スタンダード)に沿った環境マネジメントシステムを構築し、19年6月より運用を開始しました。

各職場における省エネ・省資源行動の徹底や、職員への研修(集合、職場研修)の実施、環境情報の市民への公表など LAS-E の規格に沿った取り組みを進めました。また、LAS-E の特徴の一つでもある市民による監査が実施され、判定委員会による取組の合否判定を受けました。

##### (1)市民監査及び合否判定

市民監査：平成22年11月24日・25日・26日

##### 共通実施項目監査

設問数 860問

対象部局 70部局 個別監査 市長他34名

監査員 37名(市民18名、市職員17名、専門家2名)

合否判定：平成22年12月27日

##### LAS-E 実施項目判定(共通実施項目判定)

判定事務手続き・資料作成、判定委員会召集・開催、所見の発行等

結果：エコアクション部門(環境活動) 第1ステージ 適正

エコマネジメント部門(環境経営) 第1ステージ 適正

エコガバナンス部門(環境自治) 第1ステージ 適正

##### (2)目標達成状況

LAS-E では取組を実施するだけでなく、数値目標を立てることも要求されています。平成22年度の目標並びに結果は次のようになりました。

##### 平成22年度 独自目標取組結果一覧

項目	H22 結果	基準年値	削減率	目標	結果
電気使用量(kWh)	6,059,917	6,717,652(H16)	9.8%	6.0%削減	
ガソリン使用量( )	51,034	51,727(H16)	1.3%	6.0%削減	×
軽油使用量( )	67,767	71,686(H16)	5.5%	6.0%削減	×
灯油使用量( )	180,289	197,322(H16)	8.6%	6.0%削減	
LPG 使用量(kg)	31,965	42,030(H16)	23.9%	6.0%削減	
都市ガス使用量(m <sup>3</sup> )	106,674	125,014(H16)	14.7%	6.0%削減	
水使用量(m <sup>3</sup> )	115,692	156,041(H16)	25.9%	5.0%削減	
廃棄物の排出量(袋)	39,959	41,930(H20)	4.7%	削減	
コピー用紙 (購入量)(枚)	5,790,002	5,814,567(H21)	0.4%	削減	
CO <sub>2</sub> 換算温室効果ガス 排出量(kg-CO <sub>2</sub> )	2,999,206	3,715,950(H16)	16.3%	6.0%削減	
職員研修の回数	8回実施			年2回以上 開催	
実行責任者研修 の回数	7回実施			年2回以上 開催	
環境に関する 情報の提供	年6回以上 提供			年6回以上 提供	

## 5. 第2期交野市エコオフィス率先行動計画の推進



平成13年3月に交野市エコオフィス率先行動計画（第1期）を策定し、省エネルギー・省資源による温室効果ガスの削減や環境に配慮した事務・事業を推進し、平成18年度からは当初より変化した行政組織に対応するため、また、更なる環境に配慮した行動を進めるために「第2期交野市エコオフィス率先行動計画」を策定しました。第2期交野市エコオフィス率先行動計画は、平成18年度から平成22年度までを計画期間とし、平成16年度を基準にして平成22年度までに温室効果ガスを6%削減することを目標に定めています。また、計画の適用範囲は、市のすべての組織および施設を対象とし、関連する外部組織等も含み、市が行うすべての事務・事業を対象としています。平成22年度の結果は下記のとおりです。

### (1) 平成22年度の取り組み結果

平成22年度取り組み目標	平成22年度取り組み結果	内 容
温室効果ガス排出量： 基準年比6.0%削減	基準年比18.8%削減 1,425,789kg-CO <sub>2</sub> 削減	温室効果ガス排出原因の内、80%以上を占める電気使用量の削減によって、目標よりも大幅な削減を達成できました。
電気使用量： 基準年比6.0%削減	基準年比8.5%削減 1,388,529Kwh削減	各施設での省エネを徹底して行ったところ目標より大幅な削減を達成できました。
燃料の使用量 (ガソリン・軽油・灯油・LPG・都市ガス)： 基準年比6.0%削減	ガソリン：4.9%削減 軽油：2.6%削減 灯油：8.6%削減 LPG：24.0%削減 都市ガス：27.9%削減	各施設での冷房運転の調整、保健福祉施設でボイラーから家庭用給湯器へ設備転換がありました。
水の使用量： 基準年比5%削減	基準年比30.2%削減 78,580m <sup>3</sup> 削減	幼稚園の漏水改善。各施設のトイレで擬音装置の活用により大幅な削減を達成できました。
廃棄物の排出量	基準年比19.7%削減 9,837袋/45 <sup>リットル</sup> ・袋削除	紙のリサイクル徹底やプラスチック容器の分別などの取組みにより、事務室の多い施設を中心に削減できました。

## 6. 他自治体などとの協力・交流

### 環境自治体会議

平成18年度から加入した環境自治体会議（1992年設立）は環境自治体会議をめざす自治体が、情報交換や相互交流、研究・実践活動を進める場として創られたネットワーク組織です。

第18回環境自治体会議「ちっご会議」に参加しました。

- ① 日 時 平成22年5月26日（水）～5月28日（金）
- ② 場 所 福岡県筑後市・大川市・大木町
- ③ 内 容 5月26日 基調講演「生命の世界をとりもどす」  
パネルディスカッション  
テーマ「地域からゴミゼロ社会へ挑戦」  
パネリスト 全国の環境自治体会議会員自治体首長
- 5月27日 19つのテーマごとに分科会を実施
- 5月28日 分科会報告

